

いじめに対する認識の発達社会心理学的研究

いじめ根絶視と「いじめ—いじめられ」の当事者に対する認知の観点から

鈴木康平*・田口広明**・田口恵子***

Developmental Social Psychological Study of Pupils' Cognition of Bullying in School

Perceptions of Bully's vs. Victim's Personality Traits

Kouhei SUZUKI*, Hiroaki TAGUCHI** and Keiko TAGUCHI***

(Received May 25, 1992)

We have long been investigating "bullying in school" from developmental social psychological point of view. In this study, the perceived possibility of eradication of bullying in school and perception of bully's vs. victim's personality traits were reported by subjects, who were 117 elementary school boys and girls and 83 junior high school male and female students. They gave us very stimulating information by filling out the questionnaire. The findings were as follows; the ratios of perceived three stages of possibility concerning eradication of bullying were almost the same, and perceived personality traits of bullies showed themselves various aspects; i. e. "strict criticism against others", "cold", "egoistic", "intrusive", "dependable", "cheerful", and so on. In another words, subjects considered bully's traits as those having social undesirable aspects as well as desirable ones.

Key words: bullying in school, possibility of eradication of bullying, bully's vs. victim's personality traits.

問 題

我々は、いじめの問題について、発達社会心理学的な観点から考究を続けてきている。そのアプローチの仕方には紆余曲折があったが、研究の途上において、多くの小・中学生、大学生、現職の教師、父母からの考え、応答などに接し、あるいは、数次のいじめに関わる諸学会にシンポジウムに出席あるいは拝聴したりしているうちに、いじめに対する認識の違い、とりわけ、いじめ根絶は可能か不可能かといった認識が他の諸々のいじめ全般に対する態度についての違いを引き起こしている根底に流れているもののように直観的に感じとったのである。そこで、その観点（いじめ根絶の可能視の程度）を基盤にすえていじめの諸側面の検討に入ったのであるが、その視点からの研究（鈴木 1989a, 1989b, 1989c, 鈴木・田口・高木 1989a, 1989b, 鈴木 1990, 鈴木・田口・田口 1990）により興味深い知見を得ることが出来た。ここでは、その視点を基に更に深く検討するため、小・中学生を対象に以下の点に焦点をあてて、調査研究を実施したところを報告

1) * 心理学科 ** 大矢野町立登立小学校 *** 大矢野町立大矢野中学校

2) 本研究は、日本グループ・ダイナミクス学会第 39 回大会（1991 東北福祉大学）において発表されたもののまとめである。

する。それらは即ち、①いじめ根絶視の程度は、他の諸々のいじめに対する意見についての応答に関わりがあるであろう。即ち、いじめ根絶を可能と考えている被験者群は、いじめ根絶は不可能と考えている被験者群にくらべて、いじめに対して厳しい見方・態度をもっているのではなかろうか。②いじめの当事者についての認知は、自分自身がいじめに関わっていたとき、自分自身の認知も含めて、どのような様子を呈するか、それらが、いじめ根絶視や、学年の進行段階に応じた違いがあるか、更に、③いじめが生起していたときのクラスの雰囲気への認知は、いじめの当事者（いじめ、いじめられ、双方）の立場の違いによって差が生ずるのだろうか、それはいじめ根絶視の程度と何らかの関わりがあるであろうかといった点を加味した考究である。

方 法

調査対象者：小学5年64名、小学6年53名、中学3年83名、計200名

調査期間：平成3年6月～7月。協力学校の都合のつく日、随時。調査者は、各学級担任教師。

調査方法：質問紙調査法による。学級単位の一斉集合調査。

調査項目及びその概要：まず、自分自身（被調査者）の特徴10項目について評定、ここで用いられた10項目が、以下のいじめの当事者の認知についての評定項目と同一のものとして提示されていく。

(1) いじめられた経験の有無

①いじめられた時期、②いじめられ方、③いじめられた原因、④いじめたときの相手の人数及び相手の特性、⑤いじめられていたときのクラスの雰囲気、⑥いじめられたことを相談した相手、⑦そのいじめは消滅したか続いているか。

(2) いじめた経験の有無

これについても上の(1)の中の①～⑦に該当する内容の質問がおかれた。

(3) いじめを見た経験の有無

これについても、上の(1)(2)と同様の質問が設けられたが、ここでは、特にその時のいじめている子の特性、いじめられている子の特性が問われた。(1)～(3)にわたり、いずれも強く印象に残っているものについて、ただし、(1)(2)については4名まで該当する子の特性を評定するように求められた。

(4) いじめについての意見に対する評定

いじめについての10個の意見が並べられた。調査対象の子ども達はそれに対して「大いに賛成」から「大いに反対」までの5段階尺度上にチェックをした。項目は以下の10個であり、その10番目がKey項目である。

1) いじめは人間のひどい心のあらわれで、人間として情けないおこないです。2) いじめは悪いことだけれど、もともと人間の心の中にある気持ちだから（いじめがあっても）しかたがないことです。3) いじめは、いじめるわけがしっかりしているときは（いじめを）許されます。4) いじめは人間の自然なおこないで、よいとか悪いとかの問題ではありません。5) いじめは人間としての最低のおこないです。6) いじめは、人間の自然なおこないで、いじめられる方もそれによってかえって強くなっていくので、よいところもあります。7) いじめは悪いことですが、いじめられる方もそれによって強くなっていくのだから必要なのところもあります。8) いじめはどんなわけがあっても許されません。9) いじめは悪いことですが、いじめられる方にも、悪いところがあ

るはずだから（いじめがあっても）やむをえません。10）いじめは人間のいるところには、必ずあり、決してなくなりません。

このうち、第10番目の意見をKey項目とし、それに対して「大いに賛成」か「まあ賛成」に回答チェックした調査対象者達を根絶不可能視群（IMP）、「どちらともいえない」にチェックした調査対象者達を中間群（MD）、「大いに反対」か「まあ反対」にチェックした調査対象者達を根絶可能視群（PO）とした。

結果と考察

1 いじめ根絶視の程度の出現率

中学でPO群29%，MD群35%，IMP群36%，小学5・6年生で、それぞれ30%，38%，31%という割合であった。3群の出現率が3割前後とほぼ類似の傾向を示し、かつ、それが中学生、小学生何れの場合も似た傾向にあることは誠に興味深いものがある。

2 いじめに対する意見への応答

いじめに対する各意見項目への応答の所属集団別（発達段階別）、性別、根絶可能視の程度の群別の平均、標準偏差を表1-1に示す。それをもとに所属集団別（2）×性別（2）×根絶視群別（3）の独立した3要因の分散分析を施したところを表1-2に示す。そこにみられる通り、[3] [4] [5] [6] [8]については、「学年」の主効果が有意であった。小学と中学の平均値は、[3]で1.87、

表1-1 各意見項目に対する所属集団別、性別、郡別の平均(M)と標準偏差(SD)

所属	性別	項目別 郡別	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)		(8)		(9)	
			M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
小学5・6年生	男	PO (n=18)	3.72	(1.76)	2.50	(1.26)	2.28	(1.54)	2.33	(1.41)	3.78	(1.65)	2.33	(1.56)	2.17	(1.42)	3.17	(1.38)	3.11	(1.37)
		MD (n=18)	3.17	(1.42)	2.33	(1.29)	2.28	(1.04)	3.06	(0.97)	3.00	(1.33)	2.61	(0.89)	2.61	(0.95)	3.33	(1.25)	2.89	(0.81)
		IMP (n=25)	3.68	(1.43)	2.64	(1.29)	2.36	(1.29)	2.64	(1.20)	3.68	(1.41)	2.68	(1.29)	2.80	(1.23)	3.60	(0.98)	3.20	(0.47)
	女	PO (n=17)	4.12	(0.83)	2.18	(1.29)	1.47	(0.85)	2.29	(1.36)	3.53	(1.38)	2.71	(1.18)	2.65	(0.76)	3.06	(1.43)	2.65	(0.97)
		MD (n=27)	3.93	(1.27)	2.19	(1.06)	1.89	(0.99)	2.85	(1.33)	3.48	(1.37)	2.78	(0.83)	2.78	(1.13)	3.67	(1.15)	3.04	(1.04)
		IMP (n=12)	3.83	(1.28)	2.25	(1.16)	1.92	(1.32)	3.17	(1.28)	2.58	(1.32)	3.17	(0.99)	3.25	(1.16)	3.17	(1.46)	3.75	(1.16)
中学3年生	男	PO (n=14)	4.36	(0.48)	1.86	(0.91)	2.36	(1.17)	2.00	(1.25)	4.36	(0.81)	2.14	(1.06)	2.64	(1.17)	3.93	(1.22)	3.14	(1.30)
		MD (n=10)	3.80	(1.08)	2.90	(0.83)	2.60	(0.80)	2.70	(1.10)	3.60	(1.02)	2.70	(0.78)	2.60	(0.92)	3.70	(0.90)	3.30	(0.64)
		IMP (n=19)	4.00	(0.97)	3.11	(1.02)	2.89	(1.59)	2.84	(1.14)	3.32	(1.17)	2.37	(1.13)	3.11	(1.02)	3.58	(1.09)	4.37	(0.48)
	女	PO (n=10)	4.10	(1.37)	2.10	(1.22)	1.80	(0.87)	1.60	(0.66)	4.06	(0.49)	2.00	(0.89)	2.00	(1.10)	4.20	(1.17)	2.90	(1.30)
		MD (n=19)	4.11	(0.79)	2.37	(1.04)	2.00	(0.97)	2.42	(1.35)	4.00	(1.26)	2.16	(0.99)	2.32	(1.03)	4.42	(0.67)	2.63	(1.13)
		IMP (n=11)	3.63	(1.23)	2.82	(1.19)	2.27	(1.14)	2.45	(1.08)	3.64	(1.07)	2.55	(0.89)	2.82	(1.03)	3.55	(0.78)	3.18	(1.03)

表1-2 いじめに対する各意見項目の評定の平均値（学年別、根絶視群別、性別）に基づく3要因分散分析の結果

		項目	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]
変動源		df	F	F	F	F	F	F	F	F	F
学年	A	1	1.899	1.021	6.411*	4.291*	8.722**	5.584*	0.577	10.240**	0.924
	B	2	1.196	3.182*	2.231	6.401**	5.374**	1.977	4.798**	1.021	8.511**
	C	1	0.775	1.824	16.929**	0.493	0.006	0.293	0.012	0.518	4.129*
群		2	0.301	2.383*	0.678	0.149	0.492	0.149	0.102	1.594	0.323
性		1	2.100	0.065	0.641	1.441	2.426	2.377	5.193†	1.206	6.535*
A×B		2	1.051	0.316	0.583	0.291	1.500	0.821	0.086	1.570	0.030
A×C		2	0.027	0.604	0.614	0.443	1.246	0.120	0.330	0.000	3.443*
B×C		2									
A×B×C		2									
誤差		188									

† $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

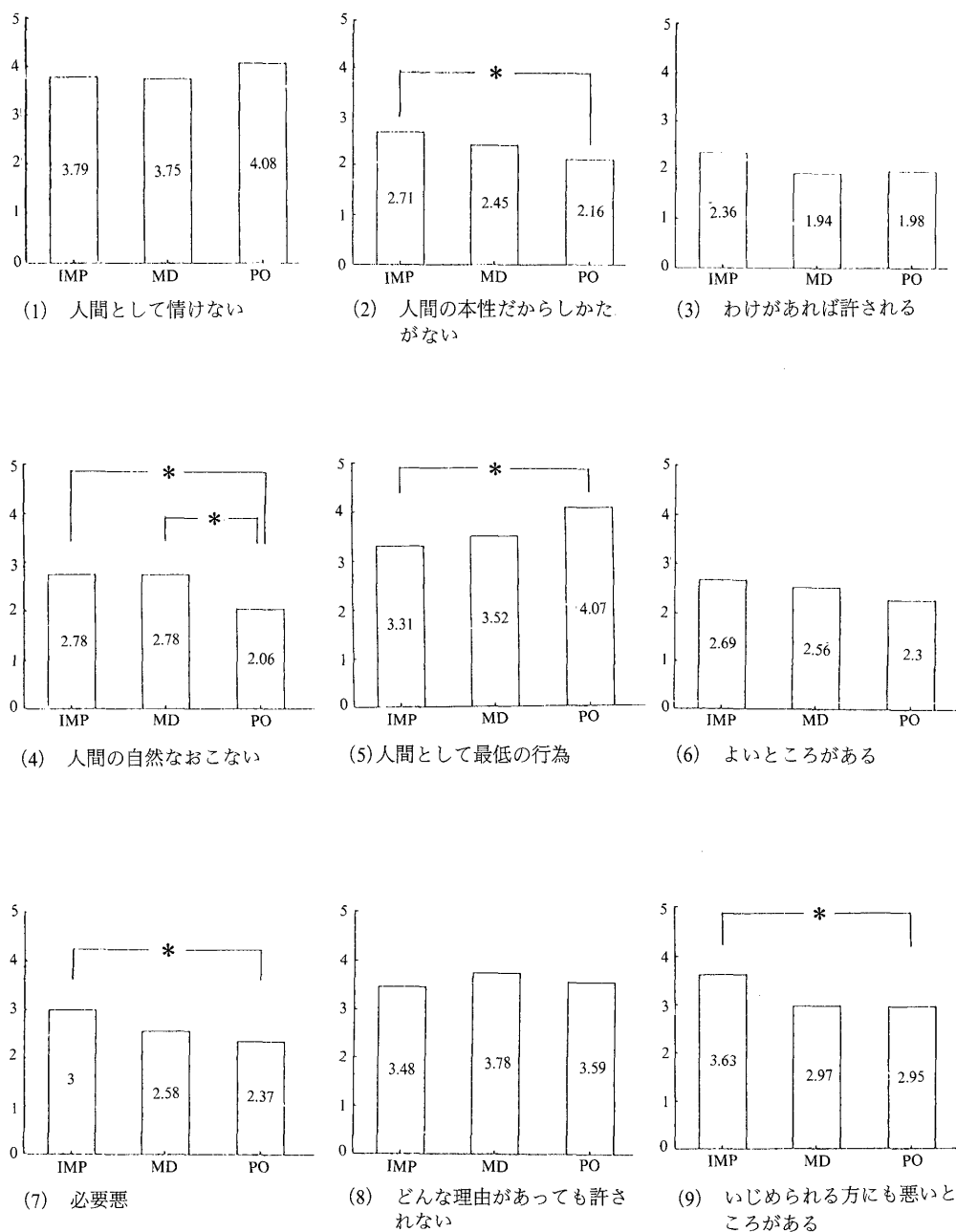


図1 いじめ根絶視各群と、いじめについての各意見に対する評定値(得点幅1~5)

(得点が高いほどその意見に賛成の度合いが高い)

* $p < .05$ (Tukey 法による平均値間の多重比較)

2.32, [4] で 2.72, 2.34, [5] で 3.34, 3.92, [6] で 2.71, 2.32, [8] で 3.33, 3.90 であった。つまり小学生は中学生に比べ、いじめは「理由があれば許される」「人間として最低の行為」とは中学生ほどには思っていない。逆に、「いじめはよいとか悪いとかの問題ではない」「いじめにも良い面がある」については中学生よりもそう思う傾向が強いことを示唆している。

さらに、[3]「理由があれば許される」では、「性」の主効果があらわれている。平均値は、男子 2.46, 女子 1.73 で、男子の方が、それに対する反対の気持ちが弱いこと、[9]「やむをえない」

も、男子 3.34、女子 3.03 で男子の方がこれに対して賛意が高いことを示している。

図 1 には可能視群別の平均値を示した。ここにおいて、項目 [2] [4] [5] [7] [9] のそれぞれにおいて、各群の平均値に差がみられる。即ち、根絶不可能と思っている群は、「人間の本性だからしかたがない」、「人間の自然なおこない」、「必要悪」、「いじめられる方にも悪いところがある」と見る方に他の群より傾きの程度が強く、いじめは「人間として最低の行為」という意見についての傾きは、PO 群より弱い傾向にあることがうかがえる。

これらの傾向は、我々の従来の研究結果と軌を一にするもので、いじめについての報道が影をうすくしている昨今と、それが激しかった頃と、子どもたちの反応にあまり違いがないことが、われわれにとってかえって驚きでもあった。

3 いじめられた体験、いじめた体験、いじめを見た体験

いじめられた体験は、中学生で根絶可能視 (PO) 群 20.83 %、中間 (MD) 群 41.38 %、根絶不可能視 (IMP) 群 46.67 %、小 5・6 年生では PO 群 71.43 %、MD 群 64.44 %、IMP 群 62.16 % で、中学生をやや上回る体験率が示された。

いじめた体験は、中学生 PO 群 45.83 %、MD 群 24.14 %、IMP 群 60.00 % で、小学 5・6 年生では、PO 群 68.57 %、MD 群 75.56 %、IMP 群 67.57 % とこれも中学生を上回る率が示された。

いじめを見た体験は、中学生 PO 群 83.33 %、MD 群 48.28 %、IMP 群 73.33 %、小学 5・6 年生ではそれぞれ 74.29 %、68.89 %、64.86 % であった。

ここで特徴的なことは、各群を比較すると、小学生には体験率の開きが余り大きくないのに対し、中学生では各群の間に幾分かの開きがみられることである。したがって、そこに、その開きを生む何等かの要因があることが予想される。

4 いじめの原因の認知

(1) いじめられた原因の認知

これについては、「自分に悪いところがあったから」(15.74 %)、「相手が悪かったから」(19.44 %)、「何が原因でいじめられたかわからない」(52.78 %)、その他 (9.26 %)、無答 (2.78 %) と、何が原因でいじめられたかわからないという認識が有意に高かった。

(2) いじめた原因の認知

これは、「相手に悪いところがあったから」(57.98 %)、「自分が悪いとはわかっていたがいじめた」(8.40 %)、「何もわけなくただなんとなくいじめただけ」(21.85 %)、その他 (10.92 %)、無答 (0.84 %) と、この場合は相手の悪さを強調しているのが目につく。

(3) いじめを見たときのいじめの原因の認知

「いじめられた子に悪いところがあったから」(22.06 %)、「いじめた子が悪かったから」(16.18 %)、「何でそのいじめがおこったのかわからない」(53.68 %)、その他 (7.35 %)、無答 (1.47 %) で、いじめの原因がわからないというのが最も多かった。

この結果を見るに、いじめられた側は、何が原因かわからず、いじめた側は、相手に悪いところがあったと認識していることがわかる。また、いじめを見た側からでは、「何が原因かわからない」が多く、思ったよりも、いじめを見た側にとってはいじめの原因を推測することが難しいようである。

5 いじめに関わる子どもの特性の認知

ここでは、いじめる子といじめられる子との特性の認知の比較を、被調査者つまり自分自身との特性の認知をベースに、その差を見ていく。

特性項目は図 2 に示す通り、10 個である。それらについて評定対象群別、根絶視群別、性別の

3次元におけるそれぞれの平均値、標準偏差等を算出し、3要因分散分析を行った。それらの全てを表示しそれに基づく分析表を提示するのが本筋であるが、ここでは紙数の関係と、殆どの項目において評定対象群の主効果が有意であり他の主効果はわずかしき有意でなかったので評定対象の主効果に関わる平均値を図示することによってそれに代えることとする。

(1) 自分自身の特性と、いじめられたとき、いじめをした相手の特性

上に述べた手順に従って整理、分析したところを図2と表2に示す。これについてみると、いじめられたときの相手より、自分の方が「他の人にやさしい」「自分にきびしい」「あたたかい」「たよりになる」「心が広い」「相手のことを考える」「あかるい」「ひっこみがち」で「失敗は自分のせい」だと、有意に強く認知していることがうかがえる。

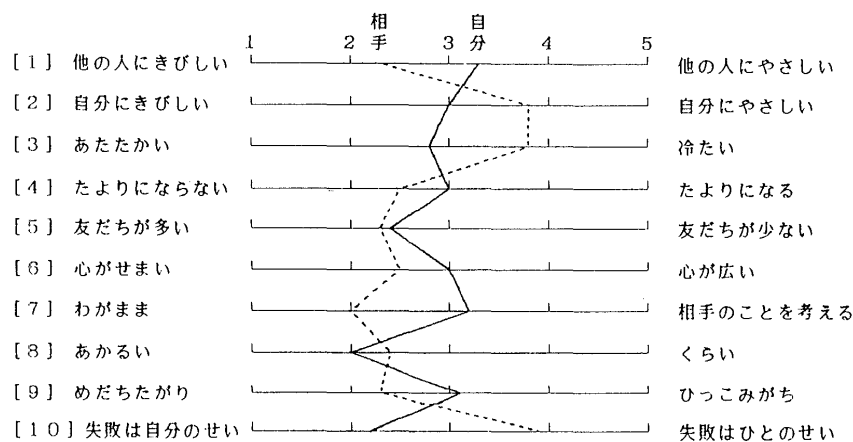


図2 自分の特徴と相手の特徴(いじめられた時)

表2 評定対象(自分—いじめられたときの相手)、根絶視群、性別による各特徴項目の評定値(平均値)に基づく3要因分散分析

項目		[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]
変動源	df	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
評定対象 A	1	52.637***	31.098***	42.028***	6.878**	0.426	13.940**	75.192***	6.828**	27.950***	140.647***
群 B	2	5.749**	0.293	2.911†	1.002	3.667*	0.576	4.135*	1.942	0.947	1.606
性 C	1	1.768	0.476	1.846	4.007*	0.768	0.181	8.212**	0.660*	0.504	4.589*
A×B	2	0.301	3.016*	0.020	1.690	0.292	3.548*	3.326*	2.418	0.154	0.675
A×C	1	0.397	0.574	0.064	0.033	1.751	6.393*	2.641	1.914	0.154	0.000
B×C	2	1.102	0.147	1.313	1.064	1.358	4.737**	1.140	0.234	3.562*	0.852
A×B×C	2	0.122	0.402	0.068	0.016	2.707†	1.313	0.428	0.099	0.580	0.165
誤差	192										

† $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

(2) 自分自身の特性と、自分がいじめた相手の特性

このことについては、図3、表3に示しているが、自分がいじめた相手より、自分の方が「自分にきびしい」「あたたかい」「たよりになる」「友達が多い」「心が広い」「相手のことを考える」「あかるい」「失敗は自分のせい」と考えている傾向が有意にあることが見いだされた(「あたたかい」のみは10%の有意傾向)。

これまでの結果を見ると自分をいじめた相手より、また、自分がいじめた相手より自分の方がより社会的に望ましい方向で認知されていることがわかる。

(3) いじめを見た時の、いじめている子といじめられている子の特性の認知

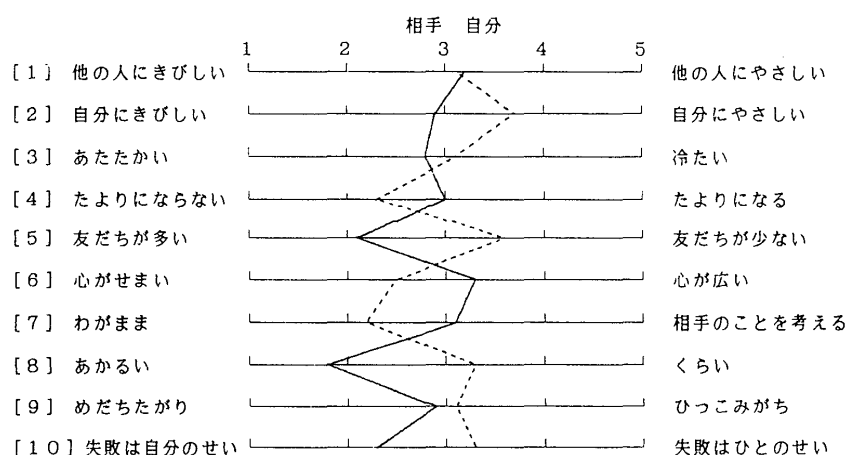


図3 自分の特徴と自分がいじめた相手の特徴

表3 評定対象 (自分—いじめた相手), 根絶視群, 性別による各特徴項目の評定値 (平均値) に基づく3要因分散分析

	項目	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]
変動源	df	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
評定対象 A	1	1.073	27.821***	2.761 [†]	19.944***	98.316***	36.773***	44.800***	99.911***	1.241	38.799***
群 B	2	2.116	2.417 [†]	2.291	0.068	0.686	1.387	0.683	2.876 [†]	0.216	0.127
性 C	1	1.834	0.215	5.651*	2.442	0.524	0.001	3.364 [†]	0.552	1.575	0.659
A×B	2	0.297	0.890	0.015	0.844	0.306	1.415	0.309	1.854	0.294	0.214
A×C	1	0.219	0.053	0.448	0.150	2.282	3.241 [†]	3.897*	1.985	0.073	0.405
B×C	2	0.483	0.108	0.487	1.024	0.856	0.649	0.135	2.746 [†]	0.188	0.447
A×B×C	2	0.326	1.703	1.956	1.606	0.082	0.464	1.877	2.118	2.718 [†]	0.377
誤差	228										

† $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

いじめを見た場合, その場でいじている子といじめられている子の特性の認知はどのようなものかについて, (1) (2) と同様の手順で分析を施した. それを図4, 表4に示す. ここでは, いじている子のほうが, いじめられている子より, 「他の人にきびしい」「冷たい」「たよりになる」「友達が多い」「わがまま」「あかるい」「めだちたがり」「失敗はひとのせい」が有意に強い方向にあり, 社会的に望ましくない特性の持ち主と認知されていることがわかる. また, 「たよりになる」「友達が多い」「あかるい」などの社会的に望ましい特性も強くなっているが, これは, いじめられる子どもが, 学級や集団内では, 弱い立場であったり, おとなしかったりという傾向がみられることから相対的に強くなっているものと考えられる.

6 学級雰囲気認識

いじめられた時, いじめた時, いじめを見た時の学級雰囲気について, 明るい—暗い, あたたかい—つめたい, いごちのよい—いごちの悪い, まとまりのある—ばらばらな, しらけていない—しらけた, 大切な—どうでもよい, 親切的な—不親切的な, おちつきのある—おちつきのない, のびのびできる—きゅうくつな, こわくない—こわい, の10項目について評定を求めたが, この調査結果に関する限り, 3つの場面間に, きわだった差は見いだせなかった. しかし, 現実のいじめが学級の中で生起していることが多いことからこの側面への接近に今後大いに努力を傾けた.

以上のように1から6に亘り, いじめ根絶視の程度, いじめに対する意見への応答, いじめ・

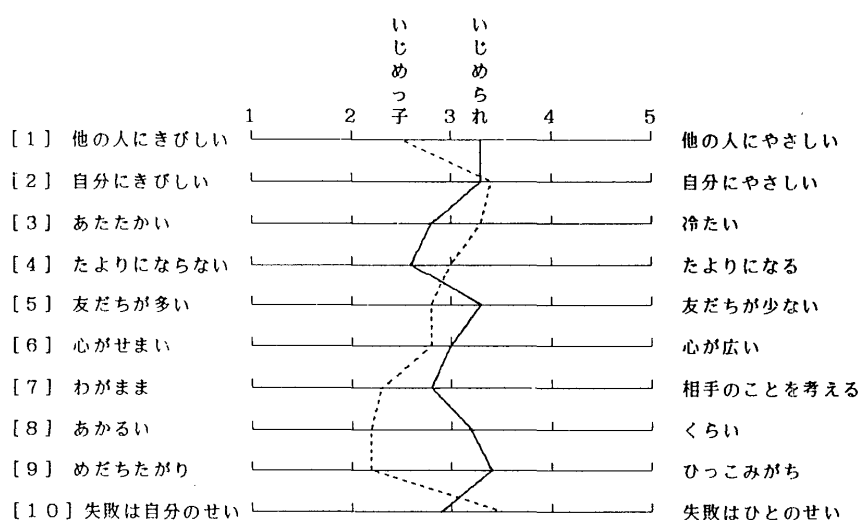


図4 いじめている子といじめられている子の特徴

表4 評定対象 (いじめを見たとき), 根絶視群, 性別による各特徴項目の評定値 (平均値) に基づく3要因分散分析

変動源	項目	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]
	df	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
評定対象 A	1	28.660***	0.256	10.135**	5.538*	9.080**	0.897	12.233**	33.796***	61.969***	13.933***
群 B	2	0.368	0.270	0.779	0.660	0.138	0.162	0.376	0.134	0.446	0.018
性 C	1	0.832	0.305	1.474	0.036*	0.385	0.001	0.071	0.002	0.172	0.585
A×B	2	0.129	0.611	0.246	3.705	0.236	1.391	1.104	1.097	0.235	0.364
A×C	1	1.221	0.888	0.118	0.180	0.005	0.001	0.029	3.267†	0.254	0.366
B×C	2	0.084	0.805	0.533	1.718	0.093	0.144	0.293	1.187	1.144	0.241
A×B×C	2	0.619	0.311	0.043	1.993	0.091	0.547	1.933	0.597	1.681	0.820
誤差	244										

† $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

いじめられ体験, いじめの原因の認知, いじめに関わる子どもの特性の認知, 学級雰囲気認知について小・中学生の様々な応答を得た。発達段階をおって変容する認識もあれば, 少なくとも小学校高学年から中学校の段階では殆ど変わらない認識もあることが窺えた。人間関係の発達の途上における重要な, そして極めて深刻な問題をはらむこのいじめ事象の解明に今後も微力を尽くしていきたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり, 非常にご多忙な中を時間をさいて調査にご協力頂いた小・中学校の教師の各位と児童・生徒の皆さんに心からお礼申し上げます。なお, データ分析にあたり本学部篠原弘章氏によるコンピュータ・プログラムを使用させて頂きました。記して感謝の意を表します。

データ整理の助力をしてくれた学生諸氏にもあわせて謝意を表します。

文 献

- 江川 成 1986 いじめから学ぶ一望ましい人間関係の育成— 大日本図書
- 深谷和子編 1986 いじめ—家庭と学校のはざま—現代のエスプリ No.228
- 古畑和孝 1985a “いじめ”の構造を探る 学習指導研修 8 (2), 42-48.
- 古畑和孝 1985b 現今の教育問題と社会心理学よりの提言—日本社会心理学会シンポジウム特別報告— 児童心理 39 (16), 195-204.
- 古畑和孝 1986 「いじめ」問題再考—鈴木康平・小倉寿男両氏の問題提起を受けて—学習指導研修 8 (11), 45-48.
- 稲村 博 1985 いじめの心理と病理 ジュリスト No.836 23-28.
- 桂 広介・長島貞夫・真仁田昭・原野広太郎編 1985 いじめを超える！—105人提言—児童心理 39 (13)
- 桂 広介・長島貞夫・真仁田 昭・原野広太郎 1985 「いじめ」の心理と指導 児童心理 39, (16)
- 森田洋司 1985 学級集団における「いじめ」の構造 ジュリスト No.836 29-35.
- 文部省編 1984 小学校生徒指導資料3 児童の友人関係をめぐる指導上の諸問題 大蔵省印刷局
- 文部省編 1985 生徒指導資料第2集 生徒指導の実践上の諸問題とその解明 大蔵省印刷局
- 西日本新聞社社会部取材編 1985 弱者いじめ 西日本新聞社
- 篠原弘章 1984a 行動科学のBASIC 第1巻 統計解析 ナカニシヤ出版
- 篠原弘章 1984b 行動科学のBASIC 第2巻 実験計画法 ナカニシヤ出版
- 篠原弘章 1989 行動科学のBASIC 第5巻 ノンパラメトリック法 ナカニシヤ出版
- 鈴木康平・佐藤静一・篠原弘章・吉田道雄 1986 いじめの社会心理学的研究 熊本大学教育学部附属教育工学センター紀要 3, 97-115.
- 鈴木康平 1986a “いじめ”の背景・動機・対策 学習指導研修 8(11), 34-39.
- 鈴木康平 1986b いじめの心理—原因・動機と指導—日本心理学会第50回大会発表論文集 S.38.
- 鈴木康平 1987 現代社会といじめ再考 教育心理 35, 762-767.
- 鈴木康平 1989a いじめに対する小・中学生の認識 熊本大学教育実践研究 6, 61-81.
- 鈴木康平 1989b いじめに対する教育学部2年次生、教育実習生、現職教師の認識 熊本大学教育学部紀要 人文科学 38, 257-270.
- 鈴木康平 1989c いじめに対する態度 九州心理学会第50回大会発表論文集 129-130.
- 鈴木康平・田口広明・高木恵子 1989a いじめに対する意見と原因の認識(1) 日本グループ・ダイナミックス学会第37回大会発表論文集 129-130.
- 鈴木康平・田口広明・高木恵子 1989b いじめに対する意見と原因の認識(2) 日本グループ・ダイナミックス学会第37回大会発表論文集 131-132.
- 鈴木康平・田口広明・田口恵子 1990 いじめに対する意見と原因の認識 熊本大学教育学部紀要 39, 人文科学, 303-317.
- 鈴木康平・田口広明・田口恵子 1991 いじめに対する態度と生活意識・価値観 熊本大学教育実践研究 8, 79-86.
- 鈴木康平・田口広明・田口恵子 1991 いじめに対する認識の研究(1) 日本グループ・ダイナミックス学会 第39回大会発表論文集 69-70.
- 鈴木康平・田口広明・田口恵子 1991 いじめに対する認識の研究(2) 日本グループ・ダイナミックス学会 第39回大会発表論文集 71-72.
- 託摩武俊 1984 こんな子がいじめ、こんな子がいじめられる 山手書房

【イ に○をつけた人におたずねします。】

- ①あなたをいじめた相手の人たちは何人でしたか。() 人
 ②そのうち、特にはっきり覚えている人を、順に4人まで思い浮かべてください。その人たちをA、B、C、Dさんします。それぞれの人はどのような性格でしたか。下のA、B、C、Dについてあてはまるところに○を1つつけてください。

Aさん

	非常に だいたい	どちら もな い	非常に
ほかの人にきびしい	_____	_____	_____
自分にきびしい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
たよりにならない	_____	_____	_____
友だちが多い	_____	_____	_____
心がせまい	_____	_____	_____
わがまま	_____	_____	_____
あかるい	_____	_____	_____
めだちたがり	_____	_____	_____
失敗は自分のせい	_____	_____	_____
ほかの人にやさしい	_____	_____	_____
自分にやさしい	_____	_____	_____
冷たい	_____	_____	_____
たよりになる	_____	_____	_____
友だちが少ない	_____	_____	_____
心が広い	_____	_____	_____
相手のことを考える	_____	_____	_____
くらい	_____	_____	_____
ひっこみがち	_____	_____	_____
失敗はひとのせい	_____	_____	_____

Bさん

	非常に だいたい	どちら もな い	非常に
ほかの人にきびしい	_____	_____	_____
自分にきびしい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
たよりにならない	_____	_____	_____
友だちが多い	_____	_____	_____
心がせまい	_____	_____	_____
わがまま	_____	_____	_____
あかるい	_____	_____	_____
めだちたがり	_____	_____	_____
失敗は自分のせい	_____	_____	_____
ほかの人にやさしい	_____	_____	_____
自分にやさしい	_____	_____	_____
冷たい	_____	_____	_____
たよりになる	_____	_____	_____
友だちが少ない	_____	_____	_____
心が広い	_____	_____	_____
相手のことを考える	_____	_____	_____
くらい	_____	_____	_____
ひっこみがち	_____	_____	_____
失敗はひとのせい	_____	_____	_____

Cさん

	非常に だいたい	どちら もな い	非常に
ほかの人にきびしい	_____	_____	_____
自分にきびしい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
たよりにならない	_____	_____	_____
友だちが多い	_____	_____	_____
心がせまい	_____	_____	_____
わがまま	_____	_____	_____
あかるい	_____	_____	_____
めだちたがり	_____	_____	_____
失敗は自分のせい	_____	_____	_____
ほかの人にやさしい	_____	_____	_____
自分にやさしい	_____	_____	_____
冷たい	_____	_____	_____
たよりになる	_____	_____	_____
友だちが少ない	_____	_____	_____
心が広い	_____	_____	_____
相手のことを考える	_____	_____	_____
くらい	_____	_____	_____
ひっこみがち	_____	_____	_____
失敗はひとのせい	_____	_____	_____

Dさん

	非常に だいたい	どちら もな い	非常に
ほかの人にきびしい	_____	_____	_____
自分にきびしい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
たよりにならない	_____	_____	_____
友だちが多い	_____	_____	_____
心がせまい	_____	_____	_____
わがまま	_____	_____	_____
あかるい	_____	_____	_____
めだちたがり	_____	_____	_____
失敗は自分のせい	_____	_____	_____
ほかの人にやさしい	_____	_____	_____
自分にやさしい	_____	_____	_____
冷たい	_____	_____	_____
たよりになる	_____	_____	_____
友だちが少ない	_____	_____	_____
心が広い	_____	_____	_____
相手のことを考える	_____	_____	_____
くらい	_____	_____	_____
ひっこみがち	_____	_____	_____
失敗はひとのせい	_____	_____	_____

- (5) あなたがいじめられたときのクラスはどのようなでしたか。あなたの印象にあうところに○をつけてください。

	非常に だいたい	どちら もな い	非常に
明るい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
いごちのよい	_____	_____	_____
まとまりのある	_____	_____	_____
しらけていない	_____	_____	_____
大切な	_____	_____	_____
親切的な	_____	_____	_____
おちつきのある	_____	_____	_____
のびのびできる	_____	_____	_____
こわくない	_____	_____	_____
暗い	_____	_____	_____
つめたい	_____	_____	_____
いごちの悪い	_____	_____	_____
ばらばらな	_____	_____	_____
しらけた	_____	_____	_____
どうでもよい	_____	_____	_____
不親切的な	_____	_____	_____
おちつきのない	_____	_____	_____
きゅうくつな	_____	_____	_____
こわい	_____	_____	_____

- (6) あなたはいじめられたことをだれかに話しましたか。話した相手に○をつけて下さい。
 ア 友人 イ 先輩 ウ 担任の先生 エ 家の人(親) オ 兄弟 カ 担任以外の先生
 キ 相談電話 ク 塾の先生 ケ 誰にも話さなかった
- (7) そのいじめはなくなりましたか。
 ・なくなった ・いまでも続いている
 【・なくなった】に○をつけた人におたずねします。そのいじめはどのようにしてなくなったのでしょうか

- 3 あなたはこれまでに、いしめを見たことがありますか (下の ある, ない のどちらかを○てかこむ)
- | | |
|-----|-----|
| ・ある | ・ない |
|-----|-----|

【・ある に○をつけた人におたすねします。】

- (1) いつころ _____
- (2) とのようないしめてしたか 一番強く印象に残っているものを書いてください (この後の質問も一番印象に残っているいしめについてです)

- (3) なせ、そのいしめがあったのですか
 (一つに○をつけてください)
- ア いしめられた子に悪いところがあったから
 イ いしめた子が悪かったから
 ウ 何てそのいしめがおこったのかわからない
 エ その他(具体的に書く)
- (4) いしめられた人はどんな人でしたか
 それぞれのことからで、あてはまるところに○をつけてください

	非常に たい たい	と ち ろ つ て も な い	非常に	
ほかの人にきひしい				ほかの人にやさしい
自分にきひしい				自分にやさしい
あたたかい				冷たい
たよりにならない				たよりになる
友たちが多い				友たちか少ない
心かせまい				心か広い
わかまま				相手のことを考える
あかるい				くらい
めたたちたり				ひっこみかち
失敗は自分のせい				失敗はひとのせい

- (5) ①いしめていたのは何人くらいでしたか () 人くらい
②いしめていた人はどんな人でしたか いしめていたのか2人以上の場合は、中心になっていた人のことを思い浮かべてそれぞれのことから、あてはまるところに○をつけてください。

	非常に たい たい	と ち ろ う も な い	非常 に
ほかの人にきひしい	_____	_____	_____
自分にきひしい	_____	_____	_____
あたたかい	_____	_____	_____
たよりにならない	_____	_____	_____
友たちが多い	_____	_____	_____
心かせまい	_____	_____	_____
わかまま	_____	_____	_____
あかるい	_____	_____	_____
めたたちたり	_____	_____	_____
失敗は自分のせい	_____	_____	_____
ほかの人にやさしい			
自分にやさしい			
冷たい			
たよりになる			
友たちか少ない			
心か広い			
相手のことを考える			
くらい			
ひっこみかち			
失敗はひとのせい			

- (6) あなたがいしめを見ていたときのクラスはどのようにしてたか あなたの印象にあうところに○をつけてください

	非常に	たいたい	もちも	とちらでも	非常に	
明るい	_____	_____	_____	_____	_____	暗い
あたたかい	_____	_____	_____	_____	_____	つめたい
いこちのよい	_____	_____	_____	_____	_____	いこちの悪い
まとまりのある	_____	_____	_____	_____	_____	はらはらな
しらけていない	_____	_____	_____	_____	_____	しらけた
大切な	_____	_____	_____	_____	_____	とうてもよい
親切な	_____	_____	_____	_____	_____	不親切な
おちつきのある	_____	_____	_____	_____	_____	おちつきのない
のひのひてきる	_____	_____	_____	_____	_____	きゅうくつな
こわくない	_____	_____	_____	_____	_____	こわい

- 4 いじめについていくつかの考え方があります。下書いてあるそれぞれの考え方について、あなたはどのくらい賛成ですか、反対ですか。あてはまるところの数字を○でかこんでください。

(1, 2, 3, 4, 5 のどれかひとつに○)

- 1) から 10) までひとつずつつけてください。

- 1) いじめは人間のひどい心のあらわれで、人間としてなさないことです。

お は お ん た に い	ま は あ ん た い	ど い ち え う な い も	ま あ さ ん せ い	お さ お ん い せ に い
1	2	3	4	5

- 2) いじめは悪いことだけれども、もともと人間の心の中にある気もちだから (いじめがあっても) しかたがないことです。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 3) いじめは、いじめるわけがしっかりしている時は、(いじめを) ゆるされます (いじめてもよい)。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 4) いじめは人間のしぜんのおこないで、よいとか悪いとかの問題ではありません。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 5) いじめは人間として、最低のおこないです。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 6) いじめは人間の自然のおこないで、いじめられる方が、それによってかえって強くなっていくので、よいところがあります。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 7) いじめは悪いことですが、いじめられる方もそれによって強くなっていくのだから必要なところもあります。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 8) いじめはどんなわけがあっても、ゆるされません。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 9) いじめは悪いことですが、いじめられる方にも、悪いところがあるはずですから (いじめがあっても) やむをえません。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 10) いじめは人間のいるところには、かならずあり、決してなくなりません。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

あなたの「いじめ」についての考え方を書いてください。

いじめは

- 5 「いじめ」についてどんなことでもかまいません。思っていることを下を書いてください。